



CONTENTS

コラム
ユーザーインタビュー
センターから
スタッフから
インターンシップ/施設見学
イベント情報
おすすめランチ
編集後記

反射炉を巡って

九州シンクロトロン光研究センター

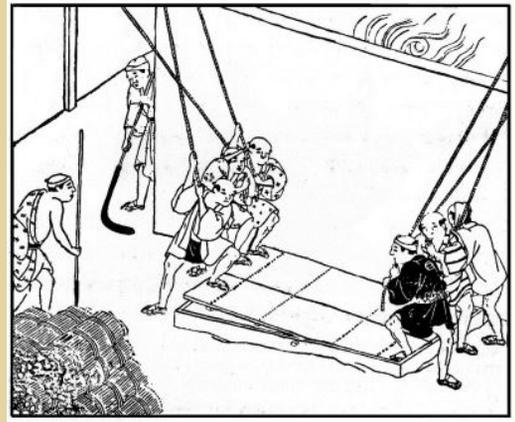
副所長 妹尾 与志木

2016年2月8日の当センター10周年記念式典での山口佐賀県知事の祝辞の中で、「九州シンクロトロン光研究センターは平成の反射炉である」との言葉が飛び出してきた。当センターにお世話になるまで佐賀県に縁のなかった筆者には、「反射炉」なるものが佐賀県に存在していたことが初耳であったばかりでなく、それがどのような炉なのかもはっきり認識できなかった。工学部冶金（やきん）学科の卒業生としては、少々慌てざるを得ない状況であった。山口知事の意図された反射炉の歴史的な意義については他の多くの方々の解説等に譲るとして、本コラムでは、反射炉を含む製鉄の歴史の技術的側面について調べた結果を記してみたいと思う。

反射炉の目的は言うまでもなく、金属の「鉄」を得ることである。非常に乱暴な言い方をすれば、赤茶けた鉄さびを金属の鉄に変換するための道具である。製鉄法の原理は、一酸化炭素ガスが酸素を取り込んで二酸化炭素ガスになる力を利用して鉄の酸化物から酸素を取り除き金属鉄に変換することである。当然のことであるが、一酸化炭素で満たした容器に赤茶色の鉄さびを詰めただけでは金属の鉄はできない。そこには「高温」という非常に重要な要素が加わってくる。現代の製鉄法では、溶鉱炉（あるいは高炉）と呼ばれる巨大な煙突のような炉の下に石炭を蒸し焼きにして炭素成分を濃縮したコークスというものを詰め、その上に鉄の赤さびに相当する鉄鉱石を載せ、コークスを燃焼させることで金属の鉄を得ている。鉄は溶けて水のように溶鉱炉の下部に流れ落ち、溶鉱炉の下部の穴から溶けた状態で取り出すことができる。実は、この「溶ける」ことも鉄を得る上では非常に重要な要素なのである。鉄の原料である鉄鉱石には、鉄のさび以外に「石」の成分も含まれており（というよりも石の中に鉄のさびが含まれているといったほうが正確）、この石の成分を分離することも製鉄プロセスの重要な役割なのである。もし鉄が溶ける温度になれば、石も溶けて液体となり、比重の違いから溶けた鉄と溶けた石は水と油のように分離する。下の水だけ取り出せば容易に鉄のみを取り出すことができる。この面でも「高温」は非常に大事な要素なのである。

反射炉の前の日本の製鉄技術は「たたら」と呼ばれるもので、れんがではなく土で作られた炉のようなものを用いる方法であったが、高温を得ることに最大の関心があったことは反射炉と同じである。両技術とも薪などを燃やして高温を得ており、その燃焼ガスには一酸化炭素はおのずと含まれてくる。「たたら」は「踏鞴」とも書かれ、歴史的にいろいろな型はあったようであるが、基本的に鞴（ふいご）を用いて高温を得るように工夫されている。

たたらの時代における技術的な難点は温度以外にもうひとつ、その原料にあった。現代の製鉄では原料の鉄鉱石はほぼ100%輸入である。「鉄鉱石」と呼べるような鉄成分の豊富な原料が存在しないことは当時の日本でも同じであった。それを克服するものとして「鉄穴（かな）流し」という技術があった。山の上で原料の砂鉄を採取し、水路を通してふもとの「たたら」までそれを流し落とす。「たたら」の前にため池を用意しておき、流れて粉碎された砂鉄をそこに溜めるが、とくに鉄成分の多い重い粉碎粉は池の底に溜まる。それを取りだして「たたら」に供する、そのような過程だったようである。



たたら製鉄における踏み鞴による送風作業（『日本山海名物図会』所載）。

いずれにしても、この「たたら」で完全に溶けた状態の鉄を得ることはほとんど不可能だったようで、半熔融の状態の鉄をたたきのぼして使える状態の金属鉄にしたようである。いわゆる日本刀の刀鍛冶の仕事に代表される「鉄を鍛える」作業が必須だったわけである。余談になるが、今われわれが博物館でお目にかかるような日本刀を作るためには、非常に良好な原料・材料に巡り合える幸運の要素も必要だったのではないかと想像する。日本刀が作れる程度の良好な材料は「玉鋼」と呼ばれている。

反射炉が必死になって各地で開発された幕末において、もっとも必要とされた鉄製品は大砲である。これはもはや鉄を鍛えて日本刀を作るプロセスでは製造できない。「鑄造」すなわち砂で作った型に溶けた鉄を流し込む方法でなければ作れない、言い換えれば製鉄の



佐賀城本丸歴史館（佐賀市）

プロセスに鉄を完全に溶かすだけの高温が必須の因子として要求されるようになったわけである。反射炉はその名の通り、熱を煉瓦で作った壁に反射させて原料部分に集中させている。原料を置く部分には傾斜がついており、原料が溶けると傾斜に沿って炉外に流れ落ちる構造になっている。佐賀城本丸歴史館内に断面模型の展示があるのでご参照いただきたい。

巻頭コラム

やや専門に偏った記述になってしまうが、現代の製鉄法では先に述べた溶鉱炉から取り出された溶けた鉄がそのまま製品になるのではなく、「転炉」と呼ばれる炉に移されて、水と油のような溶けた鉄と溶けた石の状態を十分高温で保つ過程が必ず加わる。この過程により鉄中の不純物成分が溶けた石と同様に溶けた鉄から分離される現象が生じ不純物除去が可能となる。反射炉はこの役目も担っていたはずであるが、その機能が発揮されるためには炉に挿入する原料が現代の溶鉱炉から取り出された鉄に近い十分溶けた状態を経た鉄であることが必要だったはずである。反射炉が考えられた当初そこまでの考慮はなく、たたら製鉄法により得られた材料を原料とすることが考えられていたようであるが、原料に対する顧慮は徐々に進み、実際に操業するころには、半熔融の状況を「鉄を鍛える」技術で補った刀剣が原料として用いられたとのことである [*]。しかしながら出来上がった大砲を試射したときに砲身が破裂する事故が続発したようで [*]、簡単には思惑通りにいかなかったことが伺える。

反射炉開発の事始めは、まずオランダから輸入された書物の翻訳から始めたとの記録があり、その翻訳にあたったのは全く専門の異なる蘭方医だったそうである [*]。結果として佐賀藩が作製した鉄製大砲の総数は失敗作も含めて 138 門にも上るとのこと [*]。平成の反射炉がたどる道程も同じような苦難の連続だとすれば、覚悟をしたほうが良いかもしれない。

[*] Wikipedia「築地反射炉（ついではんしゃろ）」の項の記述を十分信頼に足る情報源と判断して参照させていただきました。

(「築地反射炉」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』。2015年11月28日(土)08:19 UTC、URL: <http://ja.wikipedia.org>)



築地の反射炉（佐賀市）

今回は、長年研究センターをご利用いただいている、九州大学の巽先生と青山学院大学の賈先生にお話を伺いました。



巽 大輔 先生 *Tatsumi Daisuke*

九州大学大学院農学研究院 准教授
1997年 京都大学大学院農学研究科博士課程
中退、同大学大学院農学研究科助手を経て、
2007年より現職
趣味:ギター弾き語り(ビートルズ、スピッツ、
アンデス音楽 etc.)、聖飢魔IIの布教、アメフト
解説、量子力学、献血



賈 軍軍 先生 *Jia Junjun*

青山学院大学 工学部 化学生命研究科 助教
2011年東京大学で博士学位を取得し、青山学院
大学・工学部で博士研究員を経て、2012年か
ら青山学院大学の助教として勤務している。光触
媒や透明導電薄膜など様々な機能性を持つ金属・
無機薄膜を合成している。これら薄膜の物性評価
ならびに結晶構造と物性の相関性を中心に研究を
進めている。

❁ 1. 日頃、どのような研究をされていますか。

巽先生

セルロースの研究をしています。農学部の森林系に所属していますので、木から取れるサステナブルな資源であるセルロースを用い、これを材料として有効に利用することを研究のスタンスとしています。セルロースからゲル、繊維、フィルムなどの材料を調製し、その構造と物性の相関を調べています。SAGA-LSでは、シンクロトロン放射光を用いて小角X線散乱(SAXS)測定を行い、これらの材料の数10~数100nmオーダーの構造を検討しています。一方、物性については、研究室所有のレオメータを用いてレオロジー測定を行っています。最近注目されているセルロースナノファイバーも扱っており、そのネットワーク構造と物性の関係を調べています。

賈先生

私はフラットパネルディスプレイの透明電極、高性能薄膜トランジスタ(TFT)、熱電素子及び光触媒デバイスなどへの応用に向けて、物理的気相成長法として工業分野に幅広く利用されているスパッタ法を用いて、様々な機能を持つ金属・無機薄膜材料を合成している。これら薄膜材料の物性評価ならびに結晶構造と物性の相関性を中心に研究を進めている。さらに、薄膜における欠陥構造による有機EL素子、有機太陽電池やTFT素子の性能への影響について研究している。

❁ 2. 当研究センターご利用のきっかけを教えてください。

巽先生

九州大学に赴任直後、九州シンクロトロン光研究センター主催の研究成果報告会を拝聴したのがきっかけです。外村彰先生の講演だけが目当てだったのですが(失礼!)、センターの方のお話を伺って「これは使わない手はない!」と。以来、10年間、毎年利用させていただいています。九州大学(福岡市)から日帰りで見学できる利便さも魅力ですね。

賈先生

2014年に貴研究センターに所属している岡島敏浩様が青山学院大学・無機薄膜材料研究室に訪問した時に、広域X線吸収微細構造(EXAFS)という解析手法を紹介していただき、アモルファス薄膜の構造解析または多結晶薄膜中の欠陥構造解析に大変有用であると感じた。その後、研究室の教授と岡島敏浩様と相談し、Sn添加TiO₂薄膜のスパッタ成膜において薄膜の成長過程やSn添加の幾何構造の解明に関して、共同研究を進めることになり、貴研究センターの利用を始めた。

❁ 3. シンクロトロン放射光を使われた感想はいかがですか。測定手法など含めて教えてください。

巽先生

京都大学在職時は、学内ラボ所有のSAXS装置を利用していました。これも素晴らしい装置だったのですが、シンクロトロン放射光を利用できるようになって格段に効率が上がりました。わたしたちは溶液あるいは分散液のSAXS測定をすることが多く、測定に時間がかかります。その点で、シンクロトロン放射光を用いると測定時間が短くて済むので助かっています。さらに、SAGA-LSの設備は毎年のようにバージョンアップされており、10年前にイメージングプレートを暗室で読み込んでいた頃から思うと隔世の感があります。

賈先生

シンクロトロン放射光を用いた広域X線吸収微細構造(EXAFS)によるアモルファスの局所構造の決定は非常に有力な武器だと考えている。現在、原子配列の周期性がないため、アモルファス構造を持つ材料の物性に関する物理理論の構築が極めて困難である。シンクロトロン放射光を用いて、ある物性値(電気・光学特性など)の変化に伴ってアモルファスの局所構造がどのように変化するか決めることができ、これは将来的に理論発展の基礎的な実験データになると考えている。

❁ 4. 貴機関におけるシンクロトン放射光利用の位置付けを教えてください。

巽先生

シンクロトン放射光利用がなければ成り立たないですね。年3回の利用をいつも楽しみ（励み）に、普段のラボでの研究をしています。セルロースのような生物由来の材料は、分子鎖が集まってナノサイズの微小繊維や分子集合体を形成し、さらに集まって大きなマイクロサイズでの構造体を形成（階層構造形成）するものが多く、さまざまな空間スケールで構造を検討できる SAXS 測定はまさにうってつけです。「どのようなメカニズムで分子が集合するのか」という基礎研究から、「分子の集合状態を制御した構造体の構築」という発展的研究まで、シンクロトン放射光利用による SAXS 測定で研究できるところが魅力です。

賈先生

薄膜の結晶構造や欠陥構造は薄膜の物性に大きく影響しているため、多結晶薄膜中の欠陥構造もしくはアモルファス構造を持つ薄膜材料の局所構造の解析を主に行っている。

❁ 5. 研究センターへのご要望、今後の抱負などお聞かせください。

巽先生

センターの方々（BL スタッフの方々のみならず、利用企画課の皆さまにも）には、いつも良くしていただいています。厚く御礼申し上げます。こちらの無茶な(?) 要望（小角と広角を一緒に測りたい、など）にも、「なんとかしましょう」と対応くださり、感謝の念に堪えません。また突拍子もない測定を提案するかもしれませんが（すみません…先に謝っておきます）、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

セルロースは、古くて新しい、まさに温故知新的材料です。有史以前から人類はセルロースを利用していますがまだまだわからないことが多く、この素晴らしい自然からの贈り物の“なぞ”を少しでも解き明かしていければと思っています。

賈先生

私はアモルファス酸化物薄膜の構造解析に興味を持っている。アモルファス酸化物薄膜において、原子配列には周期性がなく、XRD などのような手法が適用できず、構造解析手法が非常に限られている。今後、貴研究センターの EXAFS や In-situ XRD など測定装置をできるだけ多く利用し、様々なアモルファス状態の薄膜材料の局所構造を決め、電気特性や光学特性など物性との相関を解明し、新規機能性材料の材料設計指針を構築していきたい。

教えてください！

● 研究を進めるうえでのスタンスやポリシーなど、一言お願いします。

巽先生

自然が示す“かたち”には意味がある。

賈先生

研究において、大胆な発想と緻密な論証が私の座右の銘である。

考えすぎずに、手を動かすことがまず大事で、実験に没頭する時

に常に研究の目的が何か、何が新しいかについて考える。



SAGA-LS でセルロース繊維を SAXS 測定した研究成果が、平成 28 年度 繊維学会秋季研究発表会でポスター賞を受賞しました。



研究室での試料調製風景。



実験中の賈先生

♡インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

センターから



四者協定を締結しました



- ①九州シンクロトロン光研究センター
- ②国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター
- ③公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団九州国際重粒子線がん治療センター
- ④鳥栖市

以上四者は、平成 29 年 1 月 23 日に包括的な連携・協力に関する覚書を締結しました。

これにより、相互のさらなる発展を目指し、協力可能なすべての分野において、具体的な連携・協力を効果的に実施し、学術の振興及び地域社会に貢献します。

九州大学ビームラインシンポジウム

九州大学では平成 29 年 1 月 30 日～2 月 3 日にわたり、イベント「九州大学エネルギーウィーク 2017」が開催されました。

その一環として「九州大学シンクロトロン光利用研究センター」の主催により、「シンクロトロン光研究センター (SLRC) 鳥栖シンポジウム」が研究センターにて執り行われました。



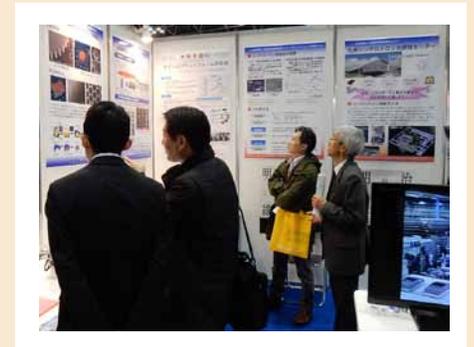
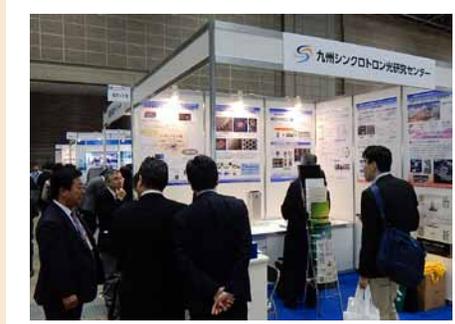
九州大学総長久保千晴様のご挨拶に始まり、浦項工科大学（韓国）の Moonhor Ree 先生による記念講演、続いて、九州大学先端物質研究所の高原先生、佐賀大学シンクロトロン光応用研究センターの東先生、住友電気工業株式会社の斎藤様より研究の紹介が行われました。

センターから



nanotech2017 に出展いたしました

平成 29 年 2 月 15 日～ 17 日、東京ビッグサイトに
て開催された nanotech2017 に出展しました。当研究
センターのブースでは研究センターを利用されてい
る、九州大学の吉武先生、田口電気工業株式会社、
佐賀県農業試験センターの研究成果をポスターにて
紹介させていただきました。また、研究センターの
研究員からも、シンクロトン光を利用した研究の
可能性などについて、ご来訪者の方々に説明させて
いただきました。



お知らせ



もうすぐ一般公開！

今年も研究センターにおいて一般公開を行います。

講演や楽しい工作、

普段入ることができない実験ホールの見学ツアーなどなど、
みんなで楽しめるイベントがいっぱい！

ご家族やお友達、みんなで誘い合わせて遊びに来てね！

センター職員一同、お待ちしております♪

日時：9月30日 9：30～16：30

(受付 16 時終了)

場所：九州シンクロトン光研究センター



STAFF INTERVIEW

今回も、SAGA-LS スタッフ 4 名を紹介いたします。

- Question-
1. 業務内容や今後の抱負などを教えてください。
 2. 趣味や休日の過ごし方などを教えてください。



妹尾 与志木
副所長
(利用・研究担当)

A1

研究・利用担当の副所長です。研究センターの基本的活動は、加速器グループの研究員の方々の施設の運転とビームライングループの研究員の方々の測定・実験とを通じて、ユーザーの研究や課題解決の支援を行うことですが、研究員が独自で計画・遂行している研究も大切な柱です。さらに、安全管理、施設管理、ユーザーに対する技術相談やアフターケアなどの業務もあり兼務の研究員と専任スタッフの方々の手で遂行されています。

私の仕事はこれらすべての業務に対して良好な環境を整備していくことです。施設運転と測定・実験以外であれば自分自身で直接担当してお手伝いすることもあります。

地方都市にあって独特な「知」の光を放っている小さな巨人のような存在の施設になれば、、、などと夢のような思いを巡らせています。

A2

今年の4月から気ままな一人暮らしを謳歌しています。40年近く前に福岡で過ごした学生時代と違い、今は車を持っていますので、平日の夜、九州の地図を眺めながら適当なところを探し出し、休日にはカメラを持って車でそこまで行ってみようような生活を送っています。学生時代にずいぶんのめり込みながら前の職場ではほとんど中断していた合唱も3年ほど前から再開して楽しんでいます。

A1

総務課長として平成28年4月からお世話になっています。前職は県職員です。総務課の業務は、全ての人々が安心して働ける環境の整備と財務会計が基本となります。皆さんから頼りにされる総務課を目指して、今後とも健康と安全・安心及び予算の適正執行に努めて参りたいと思います。

A2

休日の土日のうち1日は、佐賀市営プールで長男と一緒に500メートルほど泳いでいます。長男は生まれつき両足が不自由ですが、子供のころから水を怖がらなかったのが、全身運動のできる水泳に親身できました。これからも健康のため、週1回のペースでゆっくりと楽しみたいと思っています。

話は変わりますが、久留米市内のスケート場において毎週土曜日に、ジュニアを対象にしたアイスホッケー教室が開催されています。お子様へチャレンジさせてはどうでしょうか。



淵上 栄
総務課 課長

-Question-

1. 業務内容や今後の抱負などを教えてください。
2. 趣味や休日の過ごし方などを教えてください。



幸山 輝明
施設管理室

A1 今年4月から施設管理室でお世話になっております。

業務の内容は、研究センターの建物及びそれに関連する付帯設備の工事、修理、点検等の日程調整、立ち会い等を行っています。6月中旬から、やっと実験ホール内へ入れるようになりましたが、実験や研究について全く理解できていないのが現状です。

何はともあれ最先端の技術に、ほんの少し触れることが出来るだけでも幸運と思って、一日でも早くセンターの職員として認めて頂くよう頑張りたいと思っています。

A2 娘三人の子供たちはそれぞれ嫁いで、今は妻と二人っきりで佐賀市内に住んでいます。

孫が四人（小5男女、小1男、年少男）おりますが、小学生の孫三人は春夏秋冬休みに入るとすぐに我が家へやって来ますので、さすがにそのときは賑やか（大変）になります。

趣味なのか分かりませんが、以前からオーディオに興味がありまして一時期アンプやスピーカーなどを買いあさり、休日にはリサイクルショップの掘り出し物を探し回ったりしていました。

いま我が家ではアンプ4台、スピーカー5セットその他を組んでおり、そのアンプとスピーカーの組み合わせをリモコンで切り替えながら一人音楽に聞き入って至福のひとつときを楽しんでいます。

これに手頃な価格で音色のいい真空管アンプを揃えたいと今、物色しておりますので、何かいい情報をお持ちの方、教えていただければ幸いです。

A1 昨年10月に研究センターに採用となりました。利用企画課に所属しています。ユーザーの皆様が利用されるための事務手続きの補助業務を行っています。具体的には、実験ホールへの立ち入りに必要な入退管理カードとバッジの管理や、ユーザー様への安全教育のご案内、見学対応などです。この施設に来て初めて知ることも多く、まだまだ至らないところばかりですが、「一隅を照らす」存在になれるよう業務に努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



江口 知沙
利用企画課

A2 高校時代はテニス部でしたが、今はラケットを持たなくなって久しく、休みの日は読書や音楽を聴いて家でのんびりすることが多いです。あとは美味しいものを食べに行ったり、ショッピングをしたりしています。

スポーツとはすっかり縁遠くなってしまいましたが、ここ何年かは夏の高校野球を楽しみにしています。九州勢と他県勢が試合する場合、つい九州勢を応援してしまうのはなぜでしょうね。



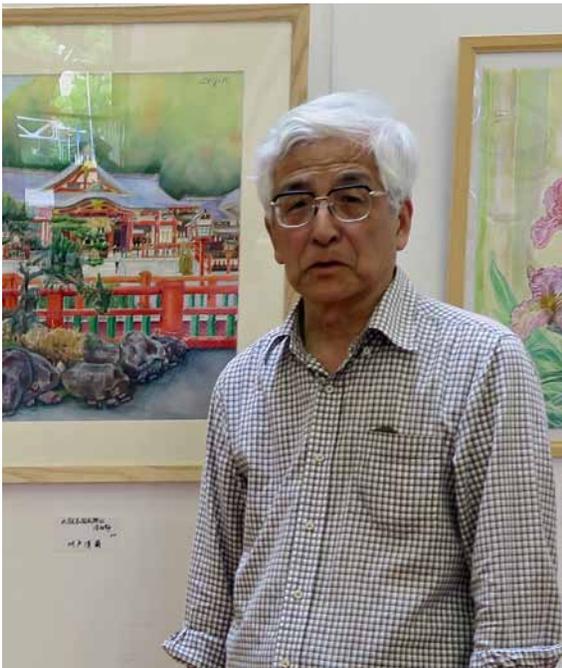
みなさま、よろしくお願いいたします！



お世話になりました



長きにわたり、SAGA-LSにおいて運営や実験について多様なご助言を
いただいていた川戸特任顧問が平成29年3月で退任されて半年。
近況を伺いました。



川戸 清爾 先生
前特任顧問

本年3月末をもって、研究センターの特任顧問を退任いたしました。丸10年経ちましたし、非常勤とはいえ、神奈川県のお宅からこちらへ通うのは、喜寿を迎えた年齢では、もう無理だなと感じ、決断しました。ユーザーの皆様には、利用相談やX線トポグラフィ実験の立ち会いなどで、親しくお付き合いいただき、誠にありがとうございました。お礼申し上げます。

4月以降、趣味の水彩画の方では、延ばし延ばしにしていた地元サークルの幹事を引き受けました。練習日の画題選定から、展覧会の企画、実行、後処理と、結構忙しくしています。肝心の絵の方は、創作活動に向けた勉強をスタート。長年しみついた材料物性の研究活動が一段落したので、放送大学を利用して、「趣味の物理学」も始めています。専門書や論文を読むのと違って、「宇宙、素粒子！そういうことだったのか」と、ただ知るだけというのは楽しいものですね。



インターンシップ・施設見学

2017年上期のインターンシップ・施設見学を一部ご紹介いたします。

インターンシップを体験されました！

平成29年7月3日～7日の5日間、鳥栖商業高等学校より男子生徒1名が、インターンシップに来られました。アンケートのデータの入力作業や、パワーポイントでのポスター作成など、さまざまな業務を体験されました。どんな業務にも真面目に黙々と取り組む姿が印象的でした。



福岡県立明善高等学校より施設見学に来られました！

平成29年6月19日、福岡県立明善高等学校から施設見学に来られました。理数科の1、2年生約90名が参加されました。学生の皆さんは、メモをとったり質問をしたりして真剣に見学されていました。



福岡県立山門高等学校より施設見学に来られました！

平成29年8月1日、福岡県立山門高等学校理数コース1年生約30名が施設見学に来られました。見学ホールを興味深そうに見て回り、ポスターもじっくりご覧になっていました。最後に生徒代表の学生より謝辞をいただきました。



ご来所いただき、ありがとうございました。
皆さんのこれからの活躍を心よりお祈りしております。

SAGA イベント情報

今回は晩秋を彩る、佐賀の代表的なイベントを2件、ご案内します！

佐賀インターナショナルバルーンフェスタ

11月1日～11月5日

秋の佐賀を彩る代表的なイベントの一つが「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」。アジア最大級の熱気球競技大会だけあって、参加総数は100機以上。

嘉瀬川の広い河川敷一面に広げられたバルーンひとつひとつが少しずつふくらみ、そして一斉に浮き上がり始めます。青空のもと、色鮮やかなバルーンが空いっぱいに飛ぶ、夢のような光景をぜひぜひ一度ご覧下さい。



唐津くんち

11月2日～11月4日

町ごとの揃いの鉢巻きと祭半纏に身を固めた、いなせな曳子たちにひかれて
笛や太鼓、鐘のにぎやかなお囃子に合わせるように
巨大な曳山が唐津の城下町を勇壮に練り歩きます。
乾漆という手の込んだ手法で作られた曳山は合わせて14基。

制作年代順に番号が振られていて
一番古い1番曳山（いちばんやま）は1819年、
つまり江戸時代後期に作られたとか。
粋な唐津っ子たちが生み出す
熱気の渦に巻き込まれてみませんか。



おすすめ

LUNCH

今回は

とうふの飛太郎

をご紹介します！

今回は、研究センターから車で数分、
大きな看板が目立つ「とうふの飛太郎」のランチをご紹介します。

「とうふの飛太郎」の本店があるのは大分県日田市。
本店では古い町並みを楽しみに来られる観光客向けにお豆腐が中心の素朴な田舎料理がメイン。
こちら弥生が丘店では、地元の方に気軽にランチを楽しんでもらおうと
弥生が丘店独自のメニューをお店の皆さんで考案されたとか。

ランチのメニューは麻婆豆腐ランチと和風ハンバーグの2種類です。



彩り豊かな小鉢と
ご飯とお味噌汁がセットです。

どちらもまずは小鉢でスタート。

お代わり自由の2種類のすくい豆腐から始まって、
ところてん、たまご豆腐などなど。

麻婆豆腐はコクがありながらも辛みは控えめ。

辛い物が苦手な方も楽しめます。

和風ハンバーグはふわふわの食感、

醤油ベースのさっぱりとした味わいです。

さらにグラタンやおから、コロッケなど、
メインのお料理にもたくさんの小鉢が。



上：豆腐ハンバーグ

下：麻婆豆腐

各 1,280 円 (税込)

最後のデザートもお豆腐で。舌の上で溶けてしまう柔らかさです。

様々な彩りのメニューに美味しく溶け込んでしまうことも実はお豆腐の個性。

飛太郎さんのお豆腐の味わいの豊かさとも言えそう。

お豆腐の原材料は福岡県朝倉市産のふくゆたか。

北海道産の大豆を混ぜることもあるそうですが、安心な国産の大豆で作られています。

改めて「とうふの飛太郎」の売りは何ですか？と伺ってみたら

なんと「お豆腐饅頭」だそうです。

昭和 25 年に創業した当時の女将さんが売りにしたのは「おから (卵の花)」。

当時の味のまま、柔らかな甘さのおからがお饅頭に入っています。



みなさまも、センターにお越しの際には

「とうふの飛太郎」のランチをぜひ！

(お持ち帰り用のお豆腐なども販売しています。)

お店 DETA

住所：佐賀県鳥栖市弥生が丘 5-226

電話番号：0942-50-8137

定休日：月曜日

営業時間：10:00 から 17:30

(LunchTime：11:00 から 14:00)



編集後記



昭和3年（1928年）から行われている鳥栖山笠。

博多の祇園山笠にならって始まった鳥栖の伝統行事です。

鳥栖市本町にある八坂神社の格納庫から引き出された山車が、鳥栖市街地を駆け巡ります。

山車は一番山から六番山までの6基と子ども山があり、どれも迫力満点です。

ちなみに山笠の裏側を何て呼ぶか知っていますか？

山笠の正面は「表（おもて）」と呼びますが、裏側は「裏（うら）」ではなく、「見送り」と呼ぶそうです。

そう呼ばれる由来は分かっていないそうですが、何だか情緒があっというんですね。



一般公開は9月30日（土）

ぜひお越しください！



Web magazine 編集委員：江口 / 東山

発行日：平成29年9月7日